

## 第9回須坂新校再編実施計画懇話会

日時：令和5年1月20日（金）

18時～19時30分

会場：須坂市生涯学習センター 3階 ホール

<次 第>

1 開 会

2 挨拶

3 会議事項

（1）「第8回須坂新校再編実施計画懇話会」まとめ

（2）学びのイメージ（原案）の説明

（3）学びのイメージ（原案）に関する討議

4 その他

<次回の予定>

（1）第10回須坂新校再編実施計画懇話会

（日時） 令和5年2月を予定

（会場） 須坂市生涯学習センターを予定

（内容） 再編実施基本計画に関する事項（募集開始年度、募集学級数等）  
について

5 閉 会

## 第8回 須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和4年12月13日(火) 18時00分～19時30分		
場所	須坂市生涯学習センター 3階 ホール		
出席 (敬称略)	三木 正夫, 新井 隆司, 藤沢 敏和, 春原 博, 久保 正直, 浅井 洋子, 霜田 剛, 半田 志郎, 鈴木 勝, 島田 千春, 坪井 扶司夫, 新井 孝之, 中坪 成海, 二ノ宮 邦彦, 大宮 透, 内田 陽菜, 畔上 大空雅, 丹下 駿, 望月 梨々音, 宮尾 悟良, 山岸 暢, 羽山 功, 小林 英司 (以上23名)		
欠席 (敬称略)	小林 雅彦, 神戸 佳代, 坪井 育美	傍聴者	2名
事務局	須坂東高校	宮下 教頭(副事務局長), 嶋田 教諭, 酒井 教諭, 山岸 教諭, 高坂 教諭	
	須坂創成高校	峯村 教頭(事務局長), 小林 教諭, 柳澤 教諭, 山口 教諭, 辻 教諭	
	県教育委員会	山岸 主幹指導主事, 高野 課長補佐, 有坂 主任指導主事	
当日資料	次第, 第7回須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案), 学校像に関する須坂市意見, 学びのイメージ(修正素案), ここまでに出示された意見		

### 会議事項

- (1) 第7回須坂新校再編実施計画懇話会のまとめ(案)について
- (2) 学びのイメージ(修正素案)の説明
- (3) 学びのイメージ(修正素案)に関する討議

### 構成員から出された主な意見(要旨)

<単位制に関する質疑応答> →事務局回答

○単位制は非常に有用な制度だと思う。

○これから高校教育は単位制というものが潮流になっていくということでしょうか。

→生徒がより主体的に、自分から前向きに学習できる方法を模索していかなければいけない。生徒の思いに寄り添って、生徒それぞれのカリキュラムが作成できるという方法が単位制である。

<学びのイメージ(修正素案)に関する質疑応答> →事務局回答

○前回「総合技術+普通科」となっていたものが「総合技術×普通科」となっているが、事務局の見解は。

→2つの特徴を掛け合わせてよりよいものを作り出すという思いを込めてそのようにした。

○単位制は自分で何がやりたいかのプランが立っていない人に対しては少しリスクがあると感じる反面、自分のやりたいことが定まっている人にとってはより充実した学びができる。良い面、悪い面の両面あるので慎重な検討が必要ではないか。

○単位制が大きな潮流であるならば、単位制を目玉にして学校の売りにしていくのはどうかと思う。

○地域の未来と生徒の未来をデザインするというのは素晴らしいことだが相当難しいこと。地域の未来を生徒にそこまで預けるのか、ということは疑問に思う。

○専門科と「みらいデザイン科」を分ける必要があるのか。

○個別最適なカリキュラムが作れるというのはすごい売り。単位制を前面に出すのではなく、個別最適なカリキュラムが自分で組めるというのを前面に出したほうが良い。

○全学科でデュアルシステムという提案があったが、ぜひ全学科で取り組んでもらいたいと思う。

### その他

#### 【次回】

日時：令和5年1月の実施を予定

会場：須坂市生涯学習センター を予定

内容：新校の学びのイメージについて 等

## 須坂新校学びのイメージ（原案）

## 《実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校》

## 育てたい生徒

- 探究的な学びをとおして、課題発見・解決能力を育み、自分の未来をデザインできる生徒
- 学びあいをとおして、他者や社会と主体的に協働できる、コミュニケーション力を持った生徒
- 多様な他者をつなぎ、新たな価値を生み出し、より良い社会実現のために学び続ける生徒

## 新校での学び

- 専門科の学びを保証したうえで、学科・学年を超えた学びと個別最適な学びを実現する単位制を導入
- 地域を学びの場とし、地域と学ぶ探究活動
- 専門科と普通科の連携により新しい発想や価値を創造
- 学びと社会、学びと自分の生き方をつなぐキャリア学習
- 生徒の主体性を育む自主活動（生徒会活動・部活動）の充実

## 専門科（総合技術）

## 総合技術×普通科

## みらいデザイン科（仮称）

実体験をとおして、自分と地域の未来を創造する学びを展開  
各科の学びの成果をもとに協働的な探究を実施

- ・各専門科（農業科・商業科・工業科）の科目を十分に履修し、専門性を確保
- ・学校設定科目「産業基礎」で農業・工業・商業の枠を超えて産業を学ぶ
- ・生徒の進路、興味関心にあわせたコース選択制で専門性を深化させ、進路を実現
- ・他の専門教科を履修し、専門性を強化  
（例）農業科の生徒が商業科のマーケティングを履修し農業経営に活かす
- ・学校設定科目「みらいデザイン（仮称）」と「総合的な探究の時間」で、校内・校外でのすべての学びを探究活動に統合
- ・学校を飛び出してのアクティブな探究活動を可能にする教育課程
- ・探究活動の成果を「総合型選抜試験」に活用する進路支援
- ・専門科目を含めた履修による幅広い進路選択の実現

＜専門科と普通科、専門科間の連携により新たな価値を発想＞

専門科の学びで得た農業・工業・商業・環境などの視点

探究活動で得た芸術・歴史・福祉・国際などの視点

- 単位制の利点を活かした学びを展開  
他の単位制高校の授業が履修可能  
校外学習、校外活動の単位認定（ボランティア、大学の講義、国際交流など）
- 全学科でデュアルシステムを実施（校外での実践的な学び）
- 世代を超えた交流学习（中学校との合同探究発表会、出前講座、公開講座など）

## 地域の人々と共に学び、地域の未来を共に創る

- 企業、自治体、大学、研究機関、関連団体等で構成する連携会議の設置
- 学校と地域をつなぐ「地域連携コーディネーター」の常駐
- 地域との協働による生涯学習の拠点づくり

## 須坂新校 再編実施計画に係る学校像について（これまでに出された意見）

	協議会からの意見・提案	再編・整備計画【二次】	懇話会で出された意見	両校からの意見
育てる生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高い志を持ち、自ら自分の進路を切り拓いていく生徒</li> <li>○ 地域の良さを知って、地域の活性化に貢献できる生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域課題と向き合い、納得解を導き出す力や論理的に分析・思考する力、新しい価値を発想・創造する力を持つ生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集団適応、コミュニケーション力が高い生徒</li> <li>○ 自分で考えて自分で動ける生徒（主体性、自律性、自主性）、目標・目的をしっかり持っている生徒</li> <li>○ 自分の未来を自ら形成する人間力を持つ生徒</li> <li>○ 自ら意思決定して行動できる生徒</li> <li>○ 自分の力で課題を発見し、解決できる生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体的に学習に取り組み、実社会の課題と向き合い、未来を創造する力をもつ生徒</li> <li>○ 予測困難な社会を生き抜くため、課題発見解決能力をもつ生徒</li> <li>○ 他者との協働・コミュニケーションを図り、未来を切り拓いていく力を持つ生徒</li> <li>○ 自らのキャリアをデザインできる生徒</li> </ul>
目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いろいろな人が集まり様々な議論を展開し、創造的な新しい発想や価値を生み出す学校</li> <li>○ きめ細やかな進路、学びのコースがある「総合技術高校プラス普通科」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新しいタイプのコミュニティデザイン高校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 交流授業や学校生活の中で異なった考え方のの人々と交流し、新たな価値を生み出せる学校</li> <li>○ 多様な分野を知り、つなぎ、新たな価値を生み出せる、人やアイデアをつなぎ、新たな価値を生み出せる学校</li> <li>○ いろいろな人とつながる、いろいろなことを学ぶ、研究するのは楽しい、ということを楽しむ高校。高校は生涯学習の出発点</li> <li>○ 時代の変化に対応でき、新しいことを取り入れることができる学校</li> <li>○ 生徒が自ら目的・目標を持ち、生徒自らが育つ学校</li> <li>○ 生涯学習の拠点となるような学校</li> <li>○ 生徒のキャリアデザインをサポートできる学校</li> <li>○ 主体的な経験ができる場を数多く用意した学校（部活動・生徒会活動以外にも）</li> <li>○ 育てたい生徒が決まれば、目指す学校像が見える</li> <li>○ 目指す学校像は不変のものではなく、時代の要請により変化するもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 専門学科と普通科の連携や他者との協働から新たな価値を生み出し、未来を創造していく力を育む</li> <li>○ 地域をフィールドとした探究的な学びを実践し、課題発見解決能力を育む</li> <li>○ 学科・教科の横断や地域連携を取り入れた新しい学びをとおして、キャリアをデザインする力を育む</li> </ul>
学カリ・キュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今までの普通科の学習領域にとらわれない特色ある魅力的なカリキュラム</li> <li>○ 実践的な就業体験をものづくり産業以外に拡大・充実させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総合技術高校と新たな普通科（地域課題に着目した実践的な探究活動に取り組む学科）の特徴を活かし、ここの生徒の可能性と能力を引き出す新たな学びのシステムの構築</li> <li>○ 大学や地域との連携・協働や先端技術の活用により、地域を創造し続けるための新たな学びの創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 週の1日は探究に使えるなど、まとまった時間の中で自分の興味を深掘できる時間を持つ。興味あることを思いきりできるという環境は強み</li> <li>○ 普通科の生徒が選択科目として他の専門学科の単位が取れるようにすることと、普通科でのデュアルシステムの実施</li> <li>○ IT、情報システム、プログラミングを学べる学科があるとよい</li> <li>○ 学年を超えたコミュニケーション、学年間の連携を進めた学習活動、異年齢での学び</li> <li>○ 地域課題を解決できる探究的な学びができる学科間連携、地域の課題は地域の資源</li> <li>○ 専門的な学びを多くの生徒が共有し、様々な科目が選択できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学科・教科の枠を超えた探究的な学び</li> <li>○ 地域をフィールドとした探究活動</li> <li>○ ICTの活用とコース制による専門性の深化</li> <li>○ 学科間連携の充実</li> </ul>
地域連携・シ・アム	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地元企業と深く結びつき、実学の部分を企業が担い、地元で育てたい生徒を地元が育てる</li> <li>○ 地域（市町村）とパートナーシップ協定や連携協定を結ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地元の企業や自治体との協働によるデュアルシステムを地域の人々が生涯にわたって学び、成長し続けるためのプラットフォームに発展させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地元の企業や自治体との連携が鍵。デュアルシステムなど、現在の須坂創成高校の取組を継承・発展していく</li> <li>○ 商品開発やスマート農業など、地域の人と一緒に学ぶ</li> <li>○ 地域の専門的知識を持った人が教えることもあってよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域をフィールドとした学びを推進するコンソーシアムの構築</li> <li>○ 地域連携コーディネーターの設置</li> <li>○ デュアルシステム、共同研究、共同開発等の実施</li> </ul>
学びの環境・その他			<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校内にとどまらず色々なバックグラウンドを持つ人々と連携、交流することは非常に有意義</li> <li>○ 多様な分野を知り、つなぎ、新たな価値を生み出せる、人やアイデアをつなぎ、新たな価値を生み出せる人材が育つ場所になるとよい</li> <li>○ 専門性を活かして取り組める文化活動部（プログラミングや機械工学、起業、農業など）が充実することも、学校の魅力になる</li> <li>○ 地域に開かれ、地域の方も一緒に学ぶことができる学校</li> <li>○ 地域にこだわるよりも社会とのつながりを持つことが大切。学校外に活動を求める必要性を持たせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域との協働による生涯学習の拠点</li> </ul>